

## 文学研究科の「21世紀COEプログラム」

### 世界に拠点を展開！

#### COEに採択される！

「21世紀COEプログラム」とは、平成13年6月に文部科学省が打ち出した「トップ30」構想を継承するもので、COEとは、センター・オブ・エクセレンス（卓越した拠点）です。大学等に世界最高水準の研究教育拠点を育てるため、すべての学問を10分野にわけ、各分野20件程度の研究計画を採択し、予算の重点配分を行う制度です。

文学研究科では、これに採択されることがきわめて重要であると考え、ぜひとも申請することとしました。しかし、どの分野に手を上げるのか、どのような構想を軸とするか、文学研究科の多様な専攻のうち、どの専攻を中心とし、どのようなメンバーで申請するか、どのように若手研究者の教育プログラムを用意するのか、どのような予算案とするか、その他さまざまな点を検討する必要があり、くり返しくり返し議論しつづけました。

その結果、「都市文化創造のための人文科学的研究」（拠点リーダー、阪口弘之 前文学研究科長）というプログラム名称を掲げ、18名の事業推進担当者を中心として、「人文科学」分野に応募することとなりました。歴史学を中心とする人文科学の立場にたち、都市を文化の視点から学問的に捉えることを特色とする構想にまとめて、文部科学省に申請をしました。

文学研究科の申請は、幸いにも「人文科学」分野20件の一つとして採択されました。この分野では、公立大学からは唯一の採択でした。

文学研究科は、このCOEプログラムによる研究を、大阪市立大学が展開している新たな研究体制の一つである「重点研究」として位置づけられるべきものと考えています。COEによって基礎的研究を充実し、その成果を、都市大阪に、そして世界の都市に有効に

還元していきたいと思ひます。

## **都市文化研究センターを設置する**

### **(1)都市文化研究センター**

COEとは、世界的な研究教育拠点を形成することをめざすものですから、文学研究科では、平成14年10月の教授会で「都市文化研究センター規程」を制定し、「都市文化研究センター Urban-Culture Research Center」(以下、本部センターまたはUCRCと略す)を設置して、これを研究教育拠点とすることとしました。センターの設置とこの規程とは、同11月の部局長会です承されています。

### **(2)センター会議・常任委員会**

本部センターの概要は、組織図(1)(2)に示したとおりですので、これによって簡単に説明します。まずCOEの拠点リーダー・副リーダーが所長・副所長になっています。このもとに事業推進担当者18名によるセンター会議が置かれており、この会議ですべての方針が決定されます。また常任委員会は、所長・副所長とCOE事務局員(オブザーバー)によって構成され、センター会議に対して、議案の審議を依頼したり、状況の説明をしたりします。

### **(3)所属メンバー**

本部センターの所属メンバーは、つぎの三種類からなっています。第一は、事業推進担当者18名です。第二に、それ以外の文学研究科教員有志(事業推進協力者)そして第三に、COE研究員と博士研究員です。これらの所属メンバーは、つぎに述べるABC3チームのいずれかに所属して共同研究に携わるとともに、適宜その他各種委員会にも所属して、COE事業の推進に尽力していただいています。また、とりわけCOE研究員を次代を担う若手研究者として育てることに格別の配慮を払っています。

### **(4)ABCチーム**

本部センターには、3つの共同研究チームが置かれています。A「比較都市文化史研究」、

B「現代都市文化研究」、C「都市の人間研究」の3つです。この3チームは、各運営委員会での相談にもとづいて共同研究を進めるとともに、各サブセンターにおける共同研究にも深くかかわっています。

#### **(5)サブセンター**

杉本キャンパスにある本部センターに対して、その支部にあたるサブセンターを世界各地に設け、各サブセンターごとに現地の大学・研究機関と、都市文化に関する共同研究を進めるとというのが、私たちのCOEの最大の特徴です。これまでに、上海市、バンコク市、ジョクジャカルタ市、ロンドン市、ハンブルク市などの世界の諸都市に5カ所のサブセンターを設けています。さらに北京にも開設する予定です。それぞれの共同研究は、各サブセンターごとの運営委員会が、右に述べたABC3チームの運営委員会と密接に連携しつつ、推進しています。

#### **(6)COE 研究員・博士研究員**

文学研究科のCOEでは、大学院学生や若手研究者の育成を重視しています。このため、COE研究員の制度を発足させました。これは、国内と海外の二つに分かれます。

国内のCOE研究員は、文学研究科内外の博士課程大学院学生や同課程単位取得退学者に対して公募し、研究計画と業績によって採用するものです。彼らは、年間一定額の研究補助金を交付され、ABCいずれかのチームに所属してその共同研究活動に参加し、インターナショナルスクールに参加します。また、希望者の中から選抜して、各サブセンターに数ヶ月間派遣し、そこでの共同研究に加わってもらいます。平成14年度は24名、平成15年度は30名を採用しました。この中には、他大学の大学院学生も含まれています。

海外のCOE研究員は、各サブセンターごとに共同研究の相手大学に推薦を依頼し、推薦されてきたものを相手大学と相談の上採用するものです。平成15年度は6名採用します。国内のCOE研究員として学位を取得したものは、大阪市立大学の博士研究員に採用されることになっています。

#### **(7)インターナショナルスクール**

都市文化研究センターに付属する教育組織として、平成 15 年度に設置したものです。各サブセンターから招聘する C O E 研究員（各大学の博士課程大学院学生や若手研究者）や、日本人の C O E 研究員を主たる対象として開かれる授業です。これには、学术交流協定を結んだ大学・研究機関を中心に、世界の優れた研究者を招聘して講義をしてもらうことになっています。これによって、教員レベルだけでなく、C O E 研究員を中心とする若手の研究者のレベルでも共同研究・学术交流を推進していこうとしています。

#### **(8)各委員会・事務局**

本部センターには、上記の A B C チーム運営委員会、各サブセンター運営委員会のほか、『文学研究科叢書』編集委員会、『都市文化研究』編集委員会、ホームページ委員会という3つの委員会があり、さらに C O E 事務局が置かれています。これらは、それぞれ役割分担しながら、精力的に事業を進めています。これらの各委員会や事務局については、項を改めて説明することにしましょう。

### **サブセンターを設置する**

現地の大学との間で締結した学术交流協定にもとづいて、私たちは世界各地の都市に 5 カ所のサブセンターを設置してきました。各サブセンターの設置状況と、そこで行っている共同研究の活動状況を紹介します。

#### **(1)上海サブセンター**

大阪市と上海市とは姉妹都市・友好都市・ビジネスパートナー都市の関係にあります。文学研究科は、この上海市の伝統ある華東師範大学の人文・法政・教育科学・資源及び環境科学・外国語の 5 学院と学术交流協定を結びました。

このほど同大学内に、田家炳教育書院という巨大な建物が建設されました。私たちは、この新しい建物の中に、2 室からなるサブセンターを設置することができました。センター内には、共同研究の推進に必要な I T ・事務機器類、事務用品を整え、本年 1 月に盛大な開所式を行ないました。これには、大阪市立大学事務局や大阪市上海事務所の協力を得

ることができ幸いでした。

開所式とともに、両大学教員による第1回研究会を開催し、今後の共同研究・共同調査について意見交換をいたしました。これらの内容はニュースレター第1号として中国側で刊行されています。また、3月に第2回研究会を開き、共同研究・共同調査について話し合いを進めました。これもニュースレター第2号にまとめられました。

これらとは別に、文学研究科教員が1～3月に滞在し、華東師範大学側との連絡・協議、共同研究の推進にあたってきました。新年度から、上海を主たる対象として、現代都市社会の実態調査を日中共同で実施し、そのデータや研究成果を研究書にまとめて、日本（日本語）と中国（中国語）で出版する、というのが共同研究のあらましです。しかし、残念なことに、3月ごろからSARS問題が深刻化したため、現在沈静化を待っているという状況です。共同研究が可能となり次第、すぐにでも取り組みを再開する予定です。

## **(2)バンコクサブセンター**

バンコク市と大阪市は、ビジネスパートナー都市提携を結んでいます。市の中心部に広大なキャンパスを有するタイ屈指の名門チュラロンコーン大学芸術学部と学术交流協定を結びました。そして、学芸学部・芸術学部棟の一室に、2月からサブセンターを開設しました。

このサブセンターには、チュラロンコーン大学側との話し合いの結果、事務補助員を現地採用して常駐してもらうことになりました。この事務補助員は、サブセンターの整備、資料収集と整理、サブセンターに出張する文学研究科教員や後述するCOE研究員のサポート、さまざまな連絡業務などにあたってもらっています。すでに文学研究科の教員数名が、当サブセンターに滞在して、整備・管理にあたりるとともに共同研究・学术交流に従事しています。また、チュラロンコーン大学の教員を3月に1名招聘し、市大での共同研究に参加してもらいました。秋にももう1名を招聘する予定です。

4月に、両大学共同主催で、サブセンター開設記念シンポジウムを開きました。セミナーに続いて、文学研究科教員4名、チュラロンコーン大学教員4名が報告を行い、成功

裡に終了しました。この内容は、今秋にタイで出版する予定（英文）です。

### **(3) ジョクジャカルタサブセンター**

私たちは、ジョクジャカルタ市にある国立ガジャマダ大学大学院文化科学研究科とインドネシア国立芸術大学という2つの大学と学术交流協定を結び、共同研究・学术交流を進めつつあります。両大学とも、インドネシアの総合大学・芸術大学のトップにランクづけられています。

私たちのサブセンターは、どちらかの大学の中に置くのではなく、両大学の間地点にあるゲストハウスの1室にすることとし、本年1月以来長期間にわたって確保しています。

私たちが国立ガジャマダ大学とインドネシア国立芸術大学に提案した共同研究は、両大学の研究者の大きな関心を呼び、芸術学・社会学・歴史学・地理学その他の分野で、都市文化を中心とした共同研究を進めつつあります。本年1月以来、文学研究科の教員やCOE研究員があいついでサブセンターに滞在し、共同研究を進めています。また、今夏以降、両大学から教員と若手研究者を文学研究科に招聘し、共同研究を進める計画です。

さらに、3月には、サブセンター設立記念第1回シンポジウムを、3大学共同主催でガジャマダ大学本部メディアルームで開催しました。開設記念セレモニーに続いて、日本側は文学研究科教員3名と大阪府立大学教員1名（市大非常勤講師、COE共同研究者）の計4名、インドネシア側からは両大学から2名ずつが報告を行いました。多くの参加者があり、盛大に行われましたことは、嬉しいかぎりです。

シンポジウムの内容は、十分に編集した上で、今秋にインドネシアで刊行する予定（英文）になっています。

### **(4) ロンドンサブセンター**

イギリスの首都ロンドンの伝統あるロンドン大学東洋アフリカ学院（SOAS）と、私たち文学研究科は学术交流協定を結びました。これにもとづいて協議を重ねた結果、ロンドン大学構内に設置するのではなく、ロンドン市内の民間不動産を借り上げ、サブセンターとして整備することとなりました。

ただちに文学研究科教員を派遣して、IT機器・事務機器・生活用品等の整備を行い、宿泊施設と研究室からなる快適なサブセンターが誕生しました。このサブセンターには、これまで文学研究科教員やCOE研究員がつぎつぎと滞在しています。また、SOASの教員や若手研究者を、七月から順次文学研究科に招聘し、インターナショナルスクールでの授業、共同研究会での発表、その他を予定しています。

4月には、サブセンター開設記念の国際シンポジウムを開催し、文学研究科2名、ロンドン大学2名、大英博物館1名、立命館大学1名の計6名が研究発表を行ないました。

ロンドンサブセンターでは、SOASのほか、大英博物館、立命館大学と共同で、日英の博物館での展覧会の開催を目的とする国際共同研究を進めています。大阪市立大学でも、10月にワークショップを開催する予定です。これらの内容も、順次報告書として公刊します。

#### **(5)ハンブルクサブセンター**

大阪市とハンブルク市とは、姉妹都市・友好都市の関係にあります。ハンザ同盟の中核都市であるハンブルク市に所在する伝統あるハンブルク大学と、わが大阪市立大学とは、大学間の学术交流協定を平成4年に結んでいます。

これにもとづいて、サマースクールや長期留学の形で本学の学生がハンブルク大学で学んでおり、ハンブルク大学の学生もつぎつぎと来日しています。サマースクールには、文学研究科の教員がボランティアで付き添い、ドイツでの学生の勉学の世話をしていることも、申し添えておきましょう。また、文学研究科には、ハンブルク大学に派遣された経験のある教員が多く、同時にたくさんの招聘研究者を受け入れています。さらに、文学研究科では、平成14～16年度の3年間にわたり、ハンブルク大学と協力して「大阪市とハンブルク市をめぐる都市・市民・文化・大学」というテーマで、大阪市立大学プロジェクト研究を推進中です。

このように、文学研究科はハンブルク大学とさまざまな結びつきを築いてきましたが、そのドイツ側の受け皿となっただけなのが、東洋学部アジア・アフリカ研究所の日本

学科でした。今回のサブセンター設置にあたっては、学科内の1室の使用を許可していただけるといふ、格別の配慮を得ることができました。また、同大学のゲストハウスを使用する便宜も得ることが出来ました。

本年6月には、サブセンター開設記念共同研究会をハンブルク大学で開催しました。これには、文学研究科教員3名、ハンブルク大学教員2名がそれぞれの研究成果を報告し、討論を行いました。また、ハンブルク大学日本学科の学生諸君に対する授業を行いました。この共同研究会ならびに授業の内容は、今秋に報告書として刊行する予定です。

今後、COE 研究員や文学研究科教員がサブセンターを訪れ、在独日本古典籍その他の共同研究に従事し、研究書の公刊をめざします。これに対して、秋以降、ハンブルク大学から研究者を招聘し、インターナショナルスクールへの参加、シンポジウムでの報告、共同研究の推進を予定しています。

ドイツでは、デュッセルドルフ市にあるドイツ「恵光」日本文化センターとも、文学研究科は学术交流協定を結びました。同センターには、すでに4月に文学研究科教員が招聘を受け、同センター主催の学会に参加しています。9月以降、同センターの研究員を文学研究科に招聘し、インターナショナルスクールに協力してもらうとともに、共同研究を推進する予定になっています。

#### **(6)北京サブセンター（予定）**

私たちは、まず中国社会科学院歴史研究所の研究者と共同研究を行うことから始めました。3月に同研究所から研究者を招聘し、共同研究会を開催し、今後の共同研究の進め方について相談しました。また、学术交流協定の締結についても具体的に話を進めました。

これにもとづいて、新年度から本格的に共同研究を推進する予定でしたが、SARSの流行により、残念ながらしばらく中断せざるをえない状況です。北京市内にサブセンターを設ける計画も、しばらく停滞しています。沈静化とともに、急速に計画を進め、サブセンターを開設するつもりです。日中共同で都市史・都市文化史に関する論文集（中国文）を刊行する計画が進行中で、論文の執筆・文献目録の作成を進めています。



## **各種委員会とCOE事務局**

本部センターには、先に挙げた組織図(2)のように、いくつかの委員会が置かれています。各サブセンターの運営委員会についてはすでにふれましたので、ここでは、それ以外の委員会の活動について説明することとします。

### **(1) Aチーム運営委員会**

「比較都市文化史研究」は、都市文化の歴史を比較検討し、新たな都市文化を創造するための方向性をさぐることを目的としています。大阪を中心とする日本の諸都市と、アジア・欧米の諸都市とを比較検討し、都市文化の担い手、社会関係、空間構造、都市間ネットワークなどの諸問題に取り組んでいます。各都市の調査のために文学研究科教員を派遣する予定です。

これまでに 10 回の研究会・運営委員会を開き、海外・国内各地の研究者を招いて討論を積み重ね、COE 研究員に発表してもらっています。また、大阪関係の古文書の画像による収集、研究文献データベースの作成を進めています。また、北京サブセンターの開設をにらみつつ、中国側との共同研究に取り組んでいます。

### **(2) Bチーム運営委員会**

「現代都市文化研究」では、多文化共生と都市的生活様式をキーワードとして、現代の日常生活世界における人間の文化的営み、現代社会や文化の中での人間生活の具体的な姿を解明することをめざしています。

上海・バンコク・ジョクジャカルタのサブセンターを拠点として、それぞれの関係大学と共同で実態調査や共同研究を実施しています。これまで 12 回の研究会・運営委員会を開いて、海外研究者の講演、COE 研究員の研究発表や、調査の実施計画、共同研究について検討しています。

### **(3) Cチーム運営委員会**

「都市の人間研究」では、人間の思想・宗教・文学、芸術・芸能などを題材として、過

去・現在の都市に生きる人間の営みを研究することを目的としています。大阪をはじめ西  
欧・アジアの諸都市を対象として、都市開発による生活環境の変化によって生じた新旧の  
価値観や生活様式の対立・多様化、都市生活と芸術文化との関係、都市住民の精神生活な  
どを、文献・実態調査などにより比較文化史的手法を用いて研究しています。これまで 9  
回の研究会・運営委員会を開き、文学研究科教員やCOE 研究員の研究発表やC チームの  
運営について検討しています。C チームの活動は、主としてロンドンとハンプルクのサブ  
センターの活動と深くかかわっています。

#### **(4) 『文学研究科叢書』編集委員会**

文学研究科の研究成果をつぎつぎと世に問う目的で、『文学研究科叢書』を発足させる  
こととなりました。COE による国際シンポジウム、国際共同研究の成果を中心に、A B  
C チームの研究成果、これらの過程で生まれた文学研究科教員個人やグループの研究成果  
なども、順次刊行していく予定です。

その第 1 巻として、3 月に『アジア都市文化学の可能性』（清文堂、336 ページ）が刊行  
されました。また、今年度中に第 2 巻も刊行される予定です。

なお、サブセンターの項でもふれましたように、各サブセンターごとに研究成果を専門  
書の形で、外国語あるいは日本語で刊行する計画がいくつも進んでいます。これらも、広  
義の『文学研究科叢書』の一部を構成するものと言えるでしょう。

#### **(5) 『都市文化研究』編集委員会**

COE による研究教育活動の機関誌として、学術雑誌『都市文化研究』を年 2 冊のペー  
スで刊行していく計画です。これは、A B C チームやサブセンターでの研究成果の発表の  
場であるとともに、文学研究科教員に研究発表の機会を提供、さらにCOE 研究員に対し  
て研究の進展を促す教育の場でもあると位置づけられます。さらに、COE 活動の記録の  
場でもあります。このような多面的な性格を持つ雑誌の意味は、きわめて大きいと考えら  
れます。

しかし、あくまでも学術雑誌でありますから、学問的な質を高度に保つことが何より要

求されます。このために、編集委員会には強い編集権が与えられており、投稿論文に対しては、厳密な査読制度によって採否を決定しています。

#### **(6) ホームページ委員会**

COE事業全体をIT面からサポートする役割を果たしています。都市文化研究センターUCRCのホームページを立ち上げ、これを通じてさまざまな情報を提供しています。COE研究員の公募はこれによって行われ、多くの応募者がありました。

専用サーバを導入して、最新のIT技術による研究活動の提案と推進や、各種資料のデータベース化をもめざしています。

#### **(7) COE事務局**

3名の事務員によって運営されています。各種委員会活動に関する情報のかなめに位置します。センター会議と常任委員会の準備、各委員会・サブセンターに関する連絡、文部科学省・大学事務局に提出する諸書類の下案の作成、関係書類の管理、COE研究員との連絡、図書や郵便物の管理、『都市文化研究』『文学研究科叢書』等の発送、その他雑多な仕事を行っています。また、プロジェクター・ノートパソコンその他の機器類を備え付けています。

(『市大広報』51号、2003年8月)